

2023年4月28日

各位

株式会社三井住友銀行

株式会社シーアールイーに「ESG/SDGs 評価シンジケーション」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：福留朗裕、以下「三井住友銀行」）は、株式会社シーアールイー（代表取締役社長：亀山忠秀、以下「シーアールイー」）に対し、「ESG/SDGs 評価シンジケーション」を実施いたしました。

「ESG/SDGs 評価シンジケーション」は、株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎勝教）と三井住友銀行が作成した基準に基づき、ESG（※1）側面の取組や情報開示、SDGs（※2）（持続可能な開発目標）達成への貢献を評価し、取組や情報開示の適切さについての現状分析、今後の課題、課題への取組事例等を還元させていただく融資商品です。

今回対象となりましたシーアールイーは、企業経営において、一定の ESG 配慮及び SDGs 達成に向けた取り組みと情報開示を実施されていると評価されました。

ESG 配慮への取り組み及び情報開示においては、以下の点等が評価されました。

- ① 事業活動を通じて社会の持続可能な発展に貢献するため「サステナビリティ基本方針」を策定。優先的に取り組むべきマテリアリティとして「サステナブルな環境の実現」「地域社会とともに発展・成長を実現」「多様な人材が活躍できる組織づくり」等を特定・開示し、サステナビリティに向けた取り組みを全社で推進する姿勢を明確にしている点
- ② 事業を通じた環境負荷削減の取り組みとして、「太陽光システム導入」「土壌汚染対策」「開発する物流施設の環境配慮」等に取り組んでいる点
- ③ 地域との共生を通じて地域社会の活性化と発展のため、地域雇用の創出、歴史保存に協力、大学での講義、福祉活動への参加等の取り組みを推進している。従業員に対しては、ダイバーシティ推進方針を策定し、「女性活躍推進」「育児支援への取り組み」等を進めるほか、働き方改革を全社的に進めるため、労働時間の管理ルールの設定や在宅勤務制度の導入等の業務効率化を実施している点

加えて、開発物件の使用電力を 100%再生可能エネルギーへ転換することを目的に、屋上を活用したグリーン電力供給を主な事業とする新会社を設立し、開発物件による再生可能エネルギーの供給のほか、相互に再生可能エネルギーを融通し合うスキームの構築や第三者施設への供給も視野に入れて事業を展開されています。

三井住友銀行では、お客さまのサステナビリティ経営に向けたソリューションの提供や対話を行い、持続可能な社会および市場の形成に一層貢献を行ってまいります。



シーアールイー開発物件「ロジスクエア新座」（現在はCREロジスティクスファンド投資法人が保有）の屋上に設置された太陽光パネル

<ご参考>

※1 ESG とは

ESG とは環境（Environment）、社会（Social）、企業統治（Governance）の頭文字を取ったものです。いずれの側面も企業が事業活動を展開するにあたって配慮や責任を求められる重要課題として考えられています。

※2 SDGsとは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を2030年までに目指す17の目標と169のターゲットのことです。

以 上